

令和5年度 学び舎ひまわり第3講 開催報告

日時 令和5年 10月14日(土) 13時~16時
会場 区役所6階 601・602・603号 会議室
受講生 28名(地域12名 企業3名 区役所13名)

プログラム内容

様々なジャンルの取組を4つとりあげ、当事者による取組内容の説明を聞いた後、グループ別に意見交換をしました。

事例① 上永谷町内会の取組

発表者：高橋 克彦 氏

『要援護者委員会の設置と防災訓練』



2008年、町内会で要援護者の名簿作成を機に町内会の組織として、当時の町内会役員、民生委員、その他有志の方々計10名で要援護者委員会を設立。要援護者カードの作成、防災訓練の内容に要援護者支援を追加、ボランティアの意識を高めるための研修など、精力的に活動を行ってきました。

コロナ禍の中でも、要援護者を訪問しメッセージカード等をお届けするなど、関係が途切れないように工夫しました。

この活動を通して、他のボランティアグループとの連携を図り、より安心して生活できる町内会を築いていきます。

【意見交換の内容(抜粋)】

- ・ボランティアを85人集めたのはすごいことだと思う。どんな工夫をしたか
→民生委員のみなさんの口コミが助けになった。また、ボランティア研修に参加した人がご近所さんを誘うこともある。様々なテーマの研修を行うことで参加者が増え、顔つなぎがより進んだように思う。
- ・民生委員との役割分担は？
→要援護者を実際の災害時に助けるのが要援護者委員会のボランティアの役割と考えている。ボランティアの人たちは40代など若い人が多い。またイベントにボランティアの人を呼んで、救護班を担ってもらったりしている。
- ・防災訓練への参加者が120名と多い。どんな工夫をしたか
→役員会で女性部、子ども会、青年部に声掛けするなど事前にリマインドした。また、小学校と協力し、ホームページに掲載してもらったり、校内で告知してもらったり、校長先生に参加をお願いしたりしている。

事例② 日野第3町内会の取組

発表者：田野井 好子 氏

『高齢者サロンの継続』



今から10年前、男性の居場所が欲しいという声で、民生委員を中心に町内会館を利用したサロン「笑福会」をスタート。毎月1回10時から15時、麻雀・将棋・編み物・折り紙・エコクラフトなどを自由に楽しめる形にし、昼食はみんなで持ち寄ってにぎやかに過ごしていました。

コロナを経て現在は午前中だけの開催ですが、にぎやかな様子は以前と変わらず、ゆるやかな見守りの場となっています。

参加してくれる皆さんやボランティアの皆さんに感謝しつつ、笑いの絶えない時間をこれからも続けていきたいと思えます。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・ボランティア精神の継続や、活動そのものを継続させるための秘訣は？
→やはり皆さんに感謝の気持ちを忘れないということ。また、「出来る人が出来ることを無理なくする」こと。
- ・新しい参加者への周知はどのようにしているか
→参加者からの口コミや回覧板や掲示板で広報している。「来てくれる方がいるからできている」と思っており、新しい人はいつでも大歓迎。
- ・参加者から「あれをやってほしい」「これをやりたい」という声はあるか
→内容はスタッフで話し合っただけ準備している。参加者からの希望があれば共有するようにしているが、今のところそんなに出ていない。

事例③ 笹下台団地自治会の取組

発表者：高橋 伸幸 氏

『自治会活動の魅力発信と人材の確保』



住民の自治会離れに歯止めをかけようと、自治会の活動を見直し、新しい取組を始めています。自治会パンフレットの内容や配布方法の工夫、少しでも多くの人に参加できるよう会議の開始時間や曜日の変更、役員の役割分担の見直し、新しいイベントの立ち上げ、夏祭りボランティアの有償化など、高齢化が進む中、若い世代が自治会の活動に参加しやすい工夫をしています。

学び舎ひまわり卒業生である私は、講座の中で紹介された取組に大変感銘を受けました。今後もみんなで相談しながら新しい取組に挑戦していきたいと思えます。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・自治会各部の業務量に応じて人数を再編することに対して、反発する方はいなかったか
→反発する人もいたが、そういった人も活動に関わりやすくするなど逃げ道を作り柔軟な対応をすることで、上手くまとまっているように感じる。
- ・自治会の活動を継続していくために今後考えていることはあるか
→複数年での役員交代であれば活動が継続していくが、現在は基本的に1年交代。今後事務局を設立したいと思っている。役員が1年で交代しても事務局があれば業務を引き継ぐことが出来、活動の継続性が保たれると考えている。
- ・管理組合も交えた定期会議の発足に対して、会議が増えることへの反発はなかったか
→参加は強制ではなく、役員も出欠自由。発信したいことがあったり、協議する内容に興味がある人が集まる。今後は会報を活用して内容を周知するなど工夫したい。

事例④ 丸山台自治会の取組

発表者：阿曾 弘美 氏

『丸山大ホコテンの開催』（第2講にて現地見学）



丸山台いちょう坂商店街と協力して開催した「丸山大ホコテン」、当日は約2万人のお客様が来場されました。

丸山台自治会は子どもから高齢者まで、障がいのある人、その家族など、様々な人が暮らしやすいやさしいまちづくりを進めています。このイベントを通じて地域住民同士の理解を深め、共生社会を実現していけたらと思っています。

試行錯誤しながらではありますが、商店街と自治会お互いの強みを生かして、今後も取組を継続させていきます。

【意見交換の内容（抜粋）】

- ・自治会と商店街との協力のきっかけは？
→昔は商店街と自治会とは折り合わない、水と油の関係と言う人もいたが、時代の変化とともに、いつの間にか協力できるようになった。コロナ禍にイベントが出来ない中で2020年に駅前イルミネーションの点灯を始めたことが、協力体制をとる大きなきっかけになった。立場が違う点もあるが、地域を良くしたいという思いは同じ方向を向いている。
- ・大変だったこと、改善したいことは？
→ホコテンイベントが今回で6回目ということもあり近隣からの大きなクレームはなかった。コロナで何年も実施していなかったため道路使用許可に時間がかかったり、主催者も出店者も慣れておらず事前の打合せと違うことが起こるなどが大変だった。改善したい点は色々あるが、当日は動き始めれば「まあ良いか」となる。

まとめ（内海先生より）

4つの事例に共通しているのは新しい地域の活動のあり方。ボランティアをどう掘り起こして、きちんと前を向いてやっていくかというところにそれぞれの工夫があったように思います。そして多世代への働きかけや様々な関係施設をうまく巻き込むことは、これからの地域活動に必要な不可欠なことです。

そして、「無理しない、強制しない、出来ることを出来る形で出来る人たちが無理なく行う」という方向に、だんだんとなってきたのかなと感じました。

学びのまとめ 集計結果

回答数 27件 / 回収率 93.1%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
26	1	0	0	0
96.3%	3.7%	0%	0%	0%

受講生の声（抜粋）

- ◎事例発表はどれも参考になりました。受講生のみなさんとの話し合いもとても有意義でした。卒業後もここでの関係性を活かせるスキームが欲しいと感じました。
- ◎ボランティア活動を長く続け、また多くのボランティアを集めていくには、どのような考え方を大切にすると良いのか、勉強になりました。今後の自治会等の活動に活かしていきたいと思います。
- ◎自分の知らない地域の活動について具体的なお話を聞くことができ、とても勉強になりました。自治会の果たす役割の大きさを認識でき、地域の団体同士が協力すればとても大きな力が出せると思いました。（企業）
- ◎地域で頑張っている方たちがそれぞれ人知れず御苦労されていることを、御本人の言葉で伺うことができたことが学びになりました。深掘して学ぶことはとても意味のあることだと思いました。（職員）

